

佐渡学センターだより

佐渡学センター
(佐渡市教育委員会社会教育課)
2012年7月17日(火)
第6号

巻頭言 変化への対応

佐渡学センター所長 渡邊剛忠

父の日の一週間前、都会に住む子供たちから、今年はスマートフォンをプレゼントしたいが、と電話があった。私のパソコンの技術が一向に進まないのを知っていて、もっと情報に関心を持ってもらいたいとの願いから話し合っ^てて決めたらしい。「有り難いねー」とは言っ^てては見たものの、最近携帯を買い換え^たばかりなので、と別のプレゼントにしてもらった。

せっかくプレゼントしてもらっても使いこなせないのでは、との自信のない自分^にに^{じくじ}忸怩たる思いを抱きながら、自分のそうした変化を振り返ってみた。

かって、高校に勤務していた頃、そして、県教委に勤務していた頃は、必要に迫られてパソコンなしでは一日たりとも生活できなかった時代があった。確かに、必要に迫られて、いつも気がついてみたらパソコンの前にいた。当時は別の何かがあったような気がする。

自らの経験を生徒に語るように努めてきたその中に、何事にも疑問を持ち、その解決のために、果敢に挑戦する気持ちを持つことの大切さを説いてきた。繰り返し語るうちに、新しいことへの好奇心をはじ

め、創造力や挑戦する態度が意識することなく身についていたのかもしれない。

平成20年、時代の変化に対応した質の高い博物館活動を支えるために、これまでの博物館法が改正された。博物館が行う事業として、これまでのように生涯学習の拠点としての望ましいあり方が一層求められた。さらに生徒たちの学習の成果を活用して行う教育活動の機会を提供する事業が追加された。佐渡においても、地域の学習は、学校基本構想の大きな柱とされており、参加体験型の学習の機会を提供する施設として、その活動が期待されている。

島外においては、ボランティア等の協力を得た地域ぐるみの博物館活動がなされ、地域活性化のための知恵袋として、これまでの博物館のイメージが大きく変化してきている。市では佐渡の瑞々しい自然をはじめ、日本の縮図と言われる文化や歴史、産業などに焦点を合わせ、多様な資産を世界に発信している。そうした変化への対応が今求められている。

父の日、送られてきたネクタイを眺めながら、やはり、スマートフォンにするべきだったかな、と考え込んでしまった。

佐渡の自然紹介 大切にしたい天然杉群

ドンデン山から金剛山に向かうトレッキングコースで、金剛山近くになるとシバ草原やブッシュ群が消え、天然杉が目立つようになる場所があります。それまで見られたブナの木がこの辺りを境に、極めて少なくなってきます。写真の杉は、両津湾側の開かれた場所にあり、巨木がー列に並んだ見事な天然杉群です。公開されている石名県有林の天然杉と同様、枝は象牙のように下がり、雪国(日本海側)で見られる天然杉の特徴がよく表れています。この付近は、夏でも湿度が高く、歩道も少しクッションがあります。歩きながら、私の重みで土壌がしまらないようにと願わずにはいられません。この環境がいつまでも、このまま残ってほしいと願うばかりです。日本海から大佐渡山地を吹き上げる風は、山頂近くで急に温度を下げ霧となります。この場所も雲霧帯であり、杉が良く育つ環境といえます。この環境を守るためにも、歩かれる方は、コースから外れないようにしましょう。(池田雄彦)



大佐渡尾根の天然杉

海運資料館(小木)

半島状の三方を海に面した小木において、かつて“海運”で本土との交流が、今では想像できないほど盛んに行われていました。小木の歴史は港湾の歴史であり、海運の歴史であったと言っても過言ではありません。

この資料館では、文化・芸能と人との係り、江戸期に小木港が大きな役割を果たしていた金銀輸送のみち、船絵馬、小木が日本一の生産地であった船ダンス、和船に使用された用具、北前航路と呼ばれた西回り航路による物流、近代の汽船時代コーナー等を展示してあります。海に左右される離島の宿命を甘受しながらも、海に挑み“海運”で生きてきた人々の知恵や感性、そして暮らしとの関わりを展示資料から感じていただけたと思います。

平成22年には考古資料館が統合され、発掘調査により明らかとなった国指定史跡である長者ヶ平遺跡を中心とした考古資料を移設展示し、海を介して運ばれていた縄文土器や黒曜石などをおして、海上交易が盛んであっ



海運資料館

た有史以前の歴史も紹介しています。

また、海運資料館前の公園横において、戦中戦後期に小木一寺泊間の海路を結んでいた現存する佐渡海峡最後の木造和船である「幸丸」の展示を行っています。小木港の歴史を偲ぶと共に、小木一寺泊との歴史や人と物との交流の足跡を物語るシンボルとして保存されています。

(須藤洋行)

資料紹介 北條家医学関係資料

佐渡には多くの流人が流されてきましたが、北條家の場合は、現在も子孫が定着している類い希な例です。最初、丹波国(兵庫県)に住んでいましたが、お寺の領地の問題で直訴して寛文3年(1663)年39歳で遠流となり、旧相川町弥十郎町において医業で自活し、旧相川町下戸町木屋の商人の娘を娶ります。その後、故あって旧金井町の泉字立野に移り住みます。そして佐渡の中央平野部農村地帯の医療を担当しました。

北條家は代々「道益」を名乗った漢方医であったものですから、多くの医学書や医療用具が伝わっています。4代から7代の道益は医学修行を他国で行ったことが記録に残っています。このようにして医学関係資料の累代の蓄積が行われてきました。

現存している医学書に関しては、96種301巻あり、寛永3年(1626)から文久3年(1863)もので、そのほとんどが漢方医学関係のものです。

医療用具には、和製皿秤と、薬箱に一括して収納された往診用の医療小道具(携帯用薬研、医療用鍼、薬



漢方医学書

匙) などがあります。

現存している医薬品は136種にもおよびます。これらの医学資料から京都の曲直瀬道三学派で医学修行を系統的に行ったことがわかります。また、同じ流人であった小倉大納言実起卿を治療、快癒した際の新潟県最古の医学カルテも残っています。

これらの資料は、江戸時代の医学の様子を知る、歴史資料として大変貴重なものです。

上記の書籍や物品は、平成14年3月29日に新潟県有形文化財に指定されました。(北見継仁)

文化財散歩道「加茂湖八景」

加茂湖は佐渡唯一の湖であり、景勝地として親しまれ、古くは「越の水海(湖)」として詩に詠まれた歴史があります。湖畔からの風景は、四季折々の姿を私たちに見せてくれます。

江戸時代後期の天保年間(1830～44年)頃、石井文海という佐渡奉行所の絵図師がおり、天保7(1836)年に加茂湖と両津湾の風景を俯瞰した「越湖勝覧」という1枚の絵図を描いています。木版印刷物として佐渡市内に数点現存が確認されています。夷港のようすや加茂湖周辺にある寺社などの位置が記された興味深い資料です。両津橋をはじめ、加茂湖の岬や湖畔から仰ぐことのできる名高い山など8箇所が囲みで表示されています。加茂湖八景(八勝)と呼ばれる名勝です。この絵図の上側には、京都出身の儒学者であった芥彦章(1710～85年)の加茂湖八勝を詠んだ詩が付されています。

もう一つ、一般に「加茂湖八景」として現代に伝えられているものがあり、「場所+場面」という構成になっています。「夕照」(夕焼け)、「晩鐘」(夕暮れに響く寺の鐘)、「帰帆」(夕方に戻る舟)、「夜雨」(夜)、「暮雪」(日暮れの雪)、「晴嵐」(霞に煙るようす)、「落雁」(舞い降りる雁)、「秋月」、という場面は、日本各地に伝わる八景と共通しています。これは、洞庭湖のある中国湖南省の名勝を集めた「瀟湘八景」にならって選ばれた場面です。瀟湘八景は14世紀頃日本に伝わり、18世紀頃から各地で流行しました。場面としてはいずれも夕方から夜にかけての風景を讃えたものです。



「越湖勝覧」(相川郷土博物館蔵)

場 所	地 区	芥彦章の八勝	加茂湖八景
両津橋	両津夷湊	両津橋	両津橋の夕照
長江	長江	長江村	—
湖鏡庵	新穂潟上	湖鏡庵	湖鏡庵の晩鐘
椎崎	原黒	椎樹岡	椎崎の帰帆
五月雨山	羽吉	梅雨峯	五月雨山の夜雨
金北山		金北山	金北山の暮雪
鳥崎	新穂潟上	白鷗洲	鳥崎の晴嵐
樹崎	秋津	天女嶼	籠米の落雁
米山	下久知	—	米山の秋月

二つの加茂湖八景

加茂湖八景も瀟湘八景になったものですが、先の芥彦章の八勝と選んだ場所が1つだけ異なり、加茂湖八景では長江の代わりに米山が選ばれています。

加茂湖八景の選ばれた時期は不明ですが、芥彦章の八勝との共通箇所が多いことから、18世紀頃にさかのぼる可能性もあります。(野口敏樹)

企画展のご案内

【秋季企画展】

「県指定文化財 北條家医学関係資料展
～流人の医師 北條道益～」(仮称)

会 期 平成24年9月1日(土)～11月30日(金)

会 場 両津郷土博物館 2階特別展示室

概 要 県指定文化財北條家医学関係資料について、このたび一括佐渡学センターで寄贈を受けました。流人北條道益について紹介し、併せて北條家に伝わる貴重な医学資料を、市民の皆様に公開する企画展です。

【冬季企画展】

「佐渡市役所のお宝展」(仮称)

会 期 平成25年1月4日(金)～3月31日(日)

会 場 両津郷土博物館 2階特別展示室

概 要 市役所の庁舎内に眠っている美術工芸資料や歴史資料等を掘り起こし、市民の皆様に紹介する展覧会です。佐渡博物館(八幡)との合同企画により、両博物館で同時開催するものです。

掲示板

イベント紹介 白山丸まつり

7月28日、29日に小木の宿根木（佐渡国小木民俗博物館千石船展示館前広場）において「白山丸まつり」が開催されます。

☆前夜祭

日時 7月28日(土) 午後5時～午後9時

・鼓童（小編成）や子供連による郷土芸能発表などが開催されます。

☆本 祭

日時 7月29日(日) 午前9時～午後3時

・千石船白山丸曳き出し及び帆上げ体験と大珍宝みこし・岬太鼓、また本年は南佐渡伝統芸能サミットと題し、小木・羽茂・赤泊の郷土芸能が披露されます。

※本祭にて行われる、白山丸曳き出し及び帆上げの体験者を募集しております。

体験してみたい方は、白山丸友の会（Tel 0259-86-1234）までお問い合わせください。

また、祭の期間中は、佐渡国小木民俗博物館を無料開放します。大勢の方のご来場をお待ちしております。



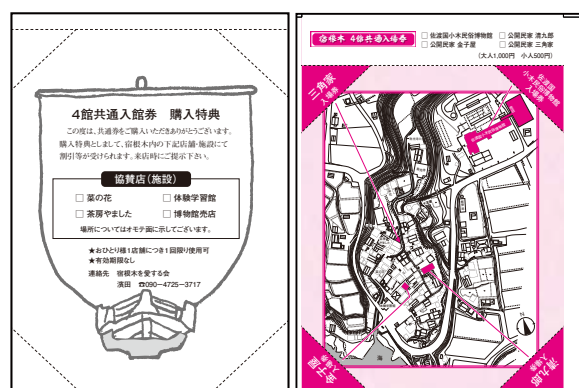
小木宿根木共通入館券のご紹介

平成24年4月1日より、宿根木集落においてシンボリックな建造物となっている「三角家」内部の一般公開が始まりました。

この一般公開に伴い、佐渡国小木民俗博物館・公開民家「清九郎」・公開民家「金子家」そして「三角家」の4館共通入館券が発行されています。佐渡国小木民俗博物館受付においても発売しています。

通常4館に入館されますと大人1,500円、小人700円となりますが、この共通入館券をご購入いただきますと大人1,000円、小人500円となり、大変お得です。

ただし、本年の「三角家」の公開は平成24年4月1日～11月25日の間の土日・祝祭日及び鼓童の宿根木公演日となっていますので、ご注意ください（須藤洋行）



共通券

編集後記

佐渡学センターが管理する博物館・資料館等には、膨大な資料が保管されております。未調査・未公開の資料も多く、この紙面を通して「佐渡のお宝」とも言える貴重な資料（史料）をこの号より紹介していきます。4月より学芸専門員として北見継仁氏が資料の調査分析の専任として着任し、その手腕が期待されます。「佐渡学」の視点から、佐渡学センターは多面的な分野の専門家が必要であり、「佐渡学」の調査・研究の上でも心強い次第です。全所員がそれぞれの専門分野を活かしながら、交互にこのたよりで「佐渡学」の柱である、歴史・文化・自然等の情報をお届けしていきます。楽しみにしていただきたいと思います。（池田雄彦）

発行 佐渡学センター（佐渡市教育委員会 社会教育課）

〒952-0021 新潟県佐渡市秋津1596 両津郷土博物館内 電話 (0259) 23-2100 FAX (0259) 23-4820

ホームページ <http://www.city.sado.niigata.jp/sadobunka/denbun/>